



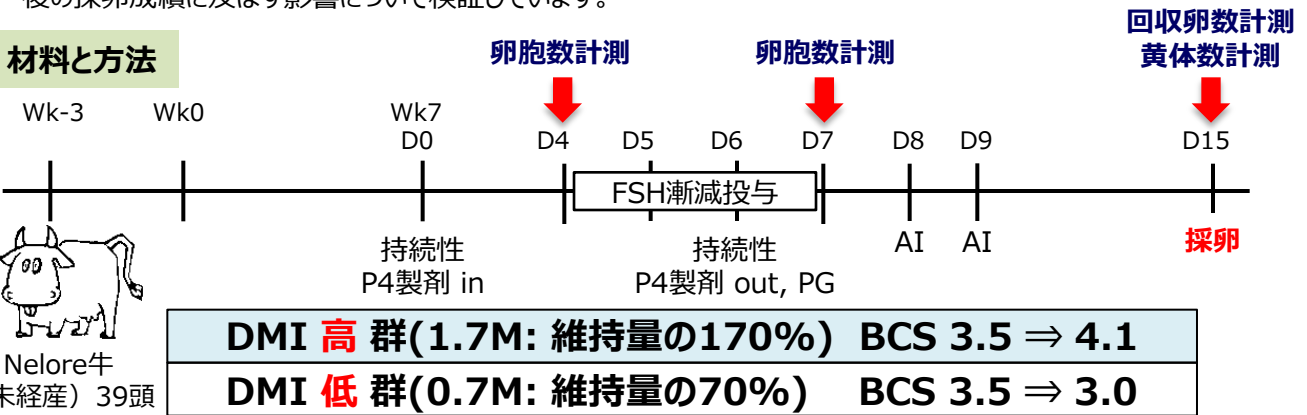
厳しい寒さも和らぎ、春はもうすぐそこまで近づいていますね。コールドストレスから解放される春は、いよいよ本格的な採卵シーズンの始まりです。今回は、栄養管理が採卵成績に及ぼす影響についての論文を紹介します。

乾物摂取量の過多は過剰排卵処置への反応性を低下させる

背景

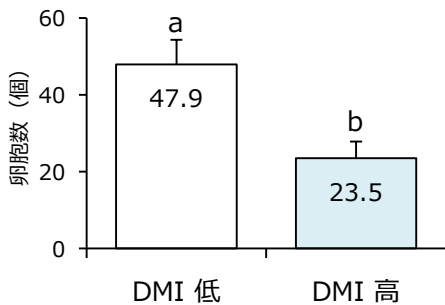
不適切な栄養管理による過肥（太りすぎ）は、分娩後の卵巢機能回復を遅延させるだけでなく、卵子や受精卵の質を低下させることが報告されています。採卵成績向上のためには、過剰排卵処置への反応性が最も重要なポイントの一つとなっていますが、過肥との関連性は明確になっていません。本研究では、乾物摂取量（DMI）の過多が過剰排卵処置後の採卵成績に及ぼす影響について検証しています。

材料と方法

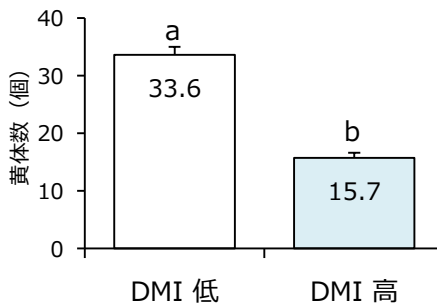


結果

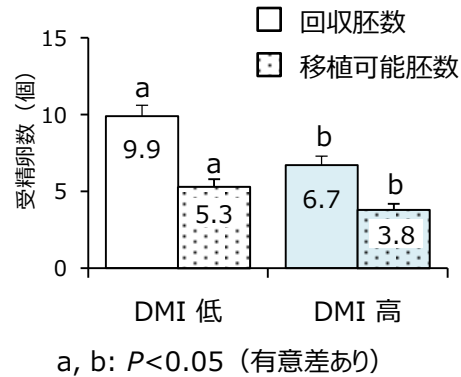
1. FSH投与後の卵胞数



2. 採卵時の黄体数



3. 採卵成績



DMIが高い群では…
✓ 過剰排卵処置後の卵胞数が少なかった
✓ 採卵時の黄体数, 回収卵数が少なかった

➡ **DMI過多により, FSHに対する反応性が低下**

DMIが高い群では血中のインスリン濃度が高かったことから、過剰な乾物摂取に伴う過肥によってインスリン抵抗性が生じ、その結果過剰排卵処置への反応性が低下した可能性が考えられます。この研究の他にも、**過肥によって卵子の質が低下し OPU/IVF後の胚盤胞発生率が低下した**といった報告もあり、栄養管理は効率的な受精卵生産のための重要なポイントになると考えられます。一方で、分娩後のDMI低下は負のエネルギーバランスを引き起こし、疾病や繁殖障害の原因となるので要注意です。それぞれのステージと用途に合わせた適切な栄養管理を心がけたいですね。

(文責：真方)